

## 第9回 交野市基本構想審議会 議事概要

- 【日 時】 令和4年9月15日（木）午前10時～午後12時
- 【場 所】 交野市役所 別館3階 中会議室
- 【出席者】 委員16名（欠席4名）  
事務局7名
- 【傍聴者】 なし
- 【議 題】 1. 第5次交野市総合計画 基本構想・第1期基本計画の答申案について  
2. その他

### 1. 開会

- 事務局による挨拶。委員20名中16名の出席確認。
- 委員長による挨拶と本日の議題の確認。

### 2. 議題1 第5次交野市総合計画 基本構想・第1期基本計画の答申案について

（事務局）

事務局から以下の内容・資料について説明

- 資料1-1「第8回基本構想審議会以降の動きについて」
- 資料1-2「パブリックコメント手続結果概要」
- 資料2-1「答申書（案）」
- 資料2-2「第5次交野市総合計画基本構想・第1期基本計画（答申）（案）」

（事務局）

- 新市長に答申するにあたり説明がある。基本計画47ページの施策「1. 学校施設の整備」の黒丸2に「第一中学校区における「施設一体型小中一貫校」の建設では」で始まる文章がある。この表現に関しては、長い期間にわたり教育委員会、関係団体、保護者で議論を進めており、既に小中一貫校建設に向けて事業が進んでいることから記載しているところであるが、新市長の方針及び他の施策とのバランスを踏まえ、表現に工夫が必要かとも考えている。これについて皆様の意見を頂戴できればと考えている。

（会長）

- 答申案の説明と、パブリックコメントからの変化について説明があり、最終的な答申案が示された。パブリックコメントの内容は、ほぼ計画に記載されている案件であり、それを市として頑張って推進してくださいという後押し的な意見だと理解している。
- また、一通り文言の修正や検討がある可能性について話があったが、9回目の審議会であり、これまでの各委員の意見や考えについて、熱心に議論いただいたうえで答申案が作成されるに至っている。私としても感謝している。
- 最終回であり、この答申案を市長宛に出すことになる。パブリックコメントまでは、ほぼ皆様の意見を踏襲してきた案が出来上がっているはずである。もし、それ以降に気づいた点があれば、大幅にやり替えるわけにはいかないが、意見いただけたらと考えている。また、先ほど事務局から説明があった部分についてもご意見をどうぞ。

(委員)

- 事務局から説明があった、47 ページの文章を変更することに非常に違和感がある。ここ1年間、委員からもご意見なく、パブリックコメントでの意見もないため、その表現を変更するのは、この審議会に対して失礼な話だと思う。簡単に文言を変更するのであれば、全部を一から見直すべきではないか。

(委員)

- 私も同じ部分について、基本構想は市がこれから長期間にわたって目指していく方向性であり、市長の交代に伴って内容が変わるようなものではない。この部分は変更する必要がないと思う。
- しかし、4年ごとに策定する基本計画は、時々市長の目指す方向性と大きく異なるべきものではないと思う。来年4月から次の基本計画の4年間が始まるというときに、新しい市長が目指そうとする内容と方向性がまったく異なることが基本計画に書き込まれているのは望ましくない。基本計画自体は、市長の政策もある程度は反映されたものであるべきだと思う。新市長の公約といっても、市の政策として確定するには時間も要するところである。これまでの市の計画に基づいて、私たちもこれまでの計画がある範囲で述べてきているため、現時点でこの部分の方向性の変更はできないと思っている。
- 私が思うには、少し幅を持たせた表現にしておくか、または答申案の鑑に「基本計画については、新市長の政策と大きな齟齬が生じないように調整したうえで、市の計画として策定される必要がある」といった一文を入れることが必要かと思っている。
- また、異なる箇所での意見であるが、30 ページに「将来の都市構造図」の地図があり、田園区域は田園区域として残すという図になっているが、私たちは都市計画マスタープランをまだ見ていない。基本構想と都市マスとの関係が分からないまま、基本計画の中にこの地図を入れ込んでしまっただけなのか気になった。

(会長)

- 47 ページの学校施設関係について意見はいかがか。委員皆様の意見を集約したうえで答えて頂こうと思っている。

(委員)

- 47 ページの件だが、前頁の学校教育や教育環境の前段に関する文言を見ても、ここだけが「第一中学校区」と特定されており、市民感覚として非常に違和感がある。他の箇所は全部、例えば教育環境全般について述べられており、総合計画という大きな枠組みで一中校区に限定して記載する必要があるのか。
- 例えばこの「第一中学校区における『施設一体型小中一貫校』の建設では」の部分をなくして、「子どもたちの学びの場としての学校」という表現に変えるといった、大きく括った表現の方が理解しやすいと感じた。

(副会長)

- 今回改めて見たが、もちろん市長が替わったことにより、内容がころころ変更するものではないと思う。ただ、先に委員が述べたように、私もここにだけ固有名詞が出ることに大きな違和感がある。他の箇所も見ると特定の場所ではなく、一般的な表現になっている。
- また、この表現に続く文章として「子どもたちの学びの場であるとともに、地域の活性化や良好な景観形成など」とあるが、ここ以外のところは良いのかとなるため、他の学校であつても新しく建設する際は、同様のことを重視するとした方が良いと思った。

- 1つ目の施策が老朽化している学校施設の改修・更新であり、2つ目は新しく建設する場合と理解したため、学校の建設に関することでも良く、市長が替わったかに関係なく、そのような考え方もあると思った。

(会長)

- 4名の委員から意見をいただいた。変更しない方がよいという意見、変更しない方がよいが第一中学校区といった具体的な表現はせず、少し丸めた表現で方向性だけを示すという意見が多いと思った。
- 他にもご意見があればいただきたい。都市の図の話題は後半に回して、まずはこの箇所について対応したい。

(委員)

- 自分としてもここまで皆さんと共に案を作り上げてきた中で、今から文章が大きく変わることに違和感を持っている。一中校区の名前が挙がっていることは気になるが、これはあくまで4年間の計画であり、この第一中学校区の整備を進めていくのは、ここまでのやり取りで同意の上で進めてきたことである。今ここを変えるというのは少し違和感があると思う。

(委員)

- 市民の立場で審議会に関わっており、一部の委員と意見は一緒である。表現に幅をもたせるため、特定した中学校区の名称は入れない方が良くと思う。

(委員)

- 私は、審議会としては変更しない方が良く思う。

(委員)

- 学校区や小中一貫校の問題は、各部門で市民の意見を聞きながら、審議会等で議論をしてきた結果まとまった内容である。私は、それをこの基本構想審議会でひっくり返してしまっただけかという点が一番大きな問題だと思う。その議論をするのであれば、まさに市議会で議員が議論すべき内容であって、この場はあくまでも中立的な我々の意見を集約して答申をするというスタンスであるはずである。この場で政治問題化しそうなことを決めていくことに非常に違和感がある。議会で決めていただければ良いのではないか。

(会長)

- 変更すべき、すべきでない意見が半々くらいである。本日の内容は答申案であり、私たちが真摯に考えてきた内容であり、修正をどの段階でするかについて、たまたま9回目に修正案件が出てきたとして、政治的な話は少し置いておくとする。この文言は、少し特定地域に限定した話ではないかという、また市民目線でという話も出ており、私も少し迷っている。
- 答申案については、諮問を受けて私たちがこれまでしっかりと議論してきた成果を、市長に対して報告するもの。答申後の取り扱いは我々の権限を超える範囲であるため、その辺りも含めてどこまで記載しておくのかということになる。基本構想は議会審議に諮ることとなるため、審議会としては合意に基づいて市長に答申書を返すこととなるため、皆様にはこれらの対応をどうするのか議論いただいていることをご理解いただきたい。

(事務局)

- 事務局としては、審議会の答申を尊重し、基本構想については市の案として今年の12月の議会に諮り議論いただく。基本計画については議会の審議案件ではないが、基本構想の資料として添付させていただきます。我々としては答申案を頂戴し、文言訂正等が必要となった場合は、市の責任でもって市の案に変更し、議会で審議いただくという流れを想定している。

- 委員皆様から様々な意見がある中、最終的に一番大事にさせていただきたいのは、答申案をまとめていただくにあたって、賛成・反対・両方の声があるという形は避けていただけたらありがたいと思っている。これまで長い時間をかけて議論を重ねていただけており、意見が割れたままの答申では非常に不本意ではないかと感じる。これであれば、色々なニュアンスも含め、皆様の思いが十分に反映されているという形でまとめていただければと思っている。

(会長)

- 事務局の意見から、審議会としてももう少し意見を集約する必要があると感じている。他にご意見はいかがか。

(委員)

- 会長の意見を重く受け止めているが、この時点でこの文言を触るのは、政治的に配慮し過ぎるのではないかと思う。このまま出しても修正されるのであれば、審議会の意向が否定されるということへの配慮であり、もうすでに最初から政治的な話になってしまっていると感じている。
- 審議会として、議論を重ねてこられた会長のご苦勞等があるにも関わらず、急転直下に配慮をしているように感じる。そもそもこの審議会の中立性がどのようになるのか。交野市にとって審議会がいかに大事であるかということを示すべきときに、その意向を変えていくことが本当に良いのかどうかについて、私は非常に重要な問題だと思う。

(会長)

- 私は市長が誰であっても全然気にしていない。皆様の意見を純粋に反映させたプランであってほしいことが前提としてある。あるべきものが、しっかりと計画・構想されていることが、私たちの学問分野では大事な考え方であり、そういう立場で話をしている。

(委員)

- 私には、何が政治的なことかは理解できないが、ここだけが具体化されているため、私はかえってこの箇所が恣意的な感じに取られるのではないかと思う。個人の意見ではあるが、先ほど政治や市長の意向と言われていたが、それに対応するために市議会や市民がいる。気にし過ぎていることが、かえって政治的ではないかと思い、気になった。

(委員)

- パブリックコメントの中で、この件がもし意見としてあったなら市民全体の意見として良いと思うが、パブリックコメントを求めた結果、意見がなかったため、私はこのままいくべきだと思う。

(会長)

- 非常にまともなご判断であり、私自身も具体的には迷っている。今の段階で変えることがということもある。パブリックコメントで最終案的な部分までいっているが、もう議論するタイミングはないため、これまで気付かなかった点について審議いただき、もし修正が必要であれば、私と副会長で調整のうえ若干の文言修正をする。他の委員の皆様はいかがか。

(委員)

- 今、会長が言われたように、恐らくこういう個別的あるいは特定の表現が他にも見落としとしてあるのではないかと感じた。何例か過去に特定し過ぎではという箇所を指摘しているが、全体がこれだけ長く時間も短いため、特定される表現が他にもあると思う。この第一中校区もそうだが、私が以前指摘したのは老人クラブだと思う。そういった特定される活動ではなく、構想にふさわしいような表現かどうかを確認する必要があるのではないか。

(事務局)

- 該当の47ページは基本計画の中身に該当する。資料31ページまでが12年間を貫く基本構想部分となる。当該ページはこの4年間をどう進めていくのかという基本計画になるため、基本構想から1つ具体的にステップアップした部分の表記となる。

(会長)

- 説明について感謝する。基本構想段階では、概念的なことや考え方について整理して記載している。それに基づき、もう少し具体的に落とし込んだ形で記載しているのが基本計画の段階であり、これくらいの表現は、具体化し過ぎているところはあるが、なきにしもあらずだと思っている。このままの形でいくという意見も多くあったが、先に申し上げたように基本構想レベルよりもブレークダウンするため、記載しておいてもよいということになる。
- ただ、特定の中学校区だけ記載するのは、他校区はやらないという意思表示につながる可能性があることは事実であり、その辺りも含めた書きぶりについて、もう少しだけご意見をいただきたい。

(委員)

- 「建設では」と記載しているが、ここに「計画」という言葉を入れて「建設計画では」とすればどうか。

(会長)

- 計画レベルであることを表記してはという意見である。今ポイントになるのは、第一中学校区を入れるかどうかという気もする。この段階であまり変えない方がよいという意見も多数ある。

(委員)

- 私は、この点に関してパブリックコメントで特に意見がなく、我々も審議会で8、9回とやってきた。他の委員が先に述べたように、我々は中立的な立場であり、あくまでも市長や議会に対して案を出すという立場であるため、このままで良いというのが私の意見である。

(委員)

- 私も同感である。12月議会に出す段階では、市長の意向も入ってくる。あくまでもこれは審議会としての答申の中身であり、小手先の触っても意味がないと思う。

(会長)

- このままいくという意見が続いている。最終チェックの段階であり、他の箇所も出てきたときには、その意見を尊重し、皆さんご意見聞いて、最終的には会長と副会長に一任いただくという運びになると思う。パブコメで概ね内容がフィックスされてはいるが、パブコメ以降にお気づきの点はぜひ本日のこの場で仰っていただきたい。

(委員)

- なかなか難しい問題であり、聞いたこととして論点が3点あると思う。1つは審議のプロセスである。審議会での議論やパブコメを経たのに、今更という点が一つ。2つは審議会の中立性の問題である。3つは基本構想、基本計画のあり方をどうするかという点である。
- 結論を申し上げますと、会長が仰るように、ここだけではなく他所にも同様の不釣り合いな部分というか、一般的なことと特定のことが書かれている部分について、この計画全体を見直すということではないかと考える。会長、副会長が事務局とももう一度整合性を見ていただいて、修正があれば修正していただくということではないかと思う。

(委員)

- 結論から言うと、この時間で審議会として全員合意できないのであれば、基本的には会長にご判断を任せたいと思っている。その上で私の意見であるが、中学校区が4区ある中で、この1区を特定している点については、確かに絞り過ぎている印象はある。しかし、今までの議論のとおり、実はこれは今後4年間のことであり、私はどちらかというとな般的にもっと詳細に記載しても良いくらいだと思っていた。
- そのため、私はこの記載をどちらかという評価しており、これを最後の回で変更するのであれば、相応な理由が必要になり、見落とししていたというのは理由にならないと思っている。関連するページとして、94、95 ページで、9 ページにわたって、これを作るに当たっての具体的で地道に税金と時間をかけて作成している計画が掲載されている。当然我々もこれに基づいて議論しているという立場である。
- この中で、特に94 ページで言うのであれば「第一中学校区魅力ある学校づくり基本方針・基本計画」が既に存在するが、これは相応の理由がある。教育施設は、公共施設全体の中で、維持管理費が掛かる。教育関係の施設が、全体の半分ぐらいを占めていて、かなり税金を使っている施設となる。このため、かなり時間をかけて整理して計画が立てられたはずである。96 ページ下方にある公共施設等再配置計画、その上で94 ページの学校教育ビジョンや適正化計画等が色々あり、それを踏まえて、第一中学校区に絞って議論されていると思うため、私としては残して良いと思っている。

(会長)

- 基本的には会長一任とのことだが、皆様の意見をできたら踏襲していきたいという思いである。

(委員)

- 第一中学校区に特化することに違和感があるという指摘に関して述べたい。第一中学校区は、様々な児童の案件があり、それらと公共施設の老朽化問題等を合わせて計画が作られたという前提があり、先に委員が述べたような流れとなっている。
- 現在、第二中学校区・第三中学校区は議論中であって、それぞれ個別の計画が出てくると聞いている。その意味では、これだけが特別に出ているという意味ではなく、教育委員が決定した確固とした方針が明確にあり、今後4年間の計画が出ていると理解している。

(委員)

- 基本構想とは色々な計画のいわば根本であり、上下関係でいえば上にあるものであると思う。では、我々が下位にあるものを否定できるのかということを考えると、そんなことはあり得ないわけである。今回の小中一貫校の問題を含めて、様々な審議会があって、長年議論されて、英知が集まって構築されたものである。それをこの場所で、整合性が取れないというようなことで決めてしまう、そのことが個人的にはプロセスとしておかしいと感じている。今まで皆が知恵を絞って検討して、英知を集めたものを否定することはできないはずなので、そこだけは譲ってはならないと思う。
- 一方で、答申をするという我々の立場からすると、それなりの結論を出さないと駄目ということはよく分かるため、ここは会長、副会長に一任して意思を統一することは必要ではないかと思う。

(会長)

- 基本構想が一番上位計画というのは間違いはない。基本構想から基本計画を経て、基本構想中の施策単位で、具体的な24分野の様々な計画がぶら下がるのも間違いではない。一方、各分野で各種マスタープラン作っているため、それを尊重するのが現在のスタイルである。
- 私は他所の基本構想を策定する際に、ある分野と全く異なるプランを基本構想で作って、それを受けて、その分野と役所内でもごちゃごちゃした経験がある。完全に尊重はするが、大きな市の方針・行政の方針を書き込むのが基本構想である。各種分野が中心となって関連分野を作られるので、

全く否定するのは良くないが、大きな方向性が変わってきたりであったり、策定のタイミングにもよるが、現在の社会情勢を考えて一番新しいプランに合わせていかなければならない。

- 各分野のマスタープランは尊重しているが、様々な社会情勢が変わってきたりすることが出てくる。総合計画とはそれくらい大事なものであるため、皆様から意見をいただいているということである。最終的に議会審議にするとはいふことである。
- それなりの責任を感じており、一任いただけるのであれば、副会長と相談しながら、今後どうするかを検討したい。多くの意見はこのままで良いのではというものであったが、何人かの方々は書き過ぎではないかという意見があった。書きすぎというご意見の方々はいかがか。

(委員)

- 最終的には会長をはじめ、事務局に一任をさせてもらえればというのが私の思いである。審議プロセスに当たり、私たちも構想と計画について、より良いものを作っていこうという思いは皆同じだと思う。このため今回微修正が伴うことを私自身は否定するものではない。
- また、第一中学校区における施設一体型小中一貫校の建設があり、新市長に変わって方向が変わる可能性があるが、必ずしも現在の議会で承認されたわけではない。正直これが、今後どのようになっていくか不透明であると認識している。
- その中で、この計画を今後4年間に向けて進めていくに当たっては、我々としては構想と計画を少しでも前に進めていただきたいと思います。この文章において、第一中学校区における施設一体型小中一貫校の建設という文章を見ると、仮にこの小中一貫校建設が行われないう方向に進んだ場合、この一文は形骸化し意味がなくなってしまうと思う。それならば、この文章が少しでも生きて、子供たちの学びの場かつ地域の活性化、いわゆるコミュニティースクールや良好な景観形成のまちづくりに貢献する公共施設として進んで欲しいと考えるならば、全ての校区の学校という形で広げることで、もう少しこの施策を前に進めてもらえるようにしてもらえればと私自身は考えている。
- 先ほどパブリックコメントに関しても述べられていた。私自身はそこを別に軽んじているわけではなく、大切にしなければと思っている。そのため、修正点が生じた場合は、この点について修正したということをホームページ等で公開することも必要ではないかと思っている。

(会長)

- もう少し抽象化して、教育そのものの考え方とする意見を何人かいただいているが、いかがか。修正案の書きぶりは会長と副会長預かりとしたいが、方向性を会長預かりとするのはなかなか難しい。数人の方がどうしても反対というような意見は絶対残ると思うが、できるだけ皆様のご意見をいただければと思う。
- 例えば第一中学校という文言を具体的に挙げてくるのは、この基本計画レベルではなくても、次の実施計画でも作れると思われる。しかし、挙げておけば、今の計画がそのままの計画となる。もう少し丸めて全般を組み込む書きぶりが本来型の総合計画の書きぶりだとは思っている。
- 政治的な判断や誰がどんなご意見を持つかについては、あまり考えずに、基本構想レベルではなく基本計画レベルの中での書きぶりの話だけであって、どちらを向くべきかという意見ではないことはご理解いただきたい。

(委員)

- この文言のところで大事なものは、施設一体型小中一貫校が、地域の活性化や良好なまちづくりに貢献する公共施設としての機能を果たすための整備に取り組みます、ということだと思う。そして、この施設一体型小中一貫校は、第一中学校区だけではなく他でも恐らく考えられると思う。

- そうであれば、第一中学校区におけるという文言を外し、施設一体型小中一貫校などの建設計画として、先ほどの「計画」の文言も入れて、こういう考え方でそれを推進することを示してはどうか。要は、公共施設としての役割を学校に持たせたり、地域の活性化に対する役割を持たせたりする方向性をその学校が担うことが大事だと思うため、そちらのほうの表現にする。これからの学校は、教育機関だけではなく、言ってみれば色々なプラットフォームになる形で進めていくのが、コミュニティスクールも含んだ方向性ではないかと思う。私も特定されていると考えて、エッセンスとしての第一中学校にはこだわったのだが、大きな目的はそうではなく、建設計画における指針を示すものではないかと思っている。
- その意味で、第一中学校区だけではなく、他の小中学校もこれから統廃合が進んだりする。4年間で第一中学校だけではなく、他の学校も同じような問題が出てくるかもしれないので、そのようにしてはどうかと思ったというのが私の意見である。しかし。会長と副会長に一任は変わらないためよろしく願いたい。

(事務局)

- 事務局の立場としては、大きな方向が変わる議論ではなく表現をどうするかであると思っている。会長、副会長に一任と言っていていただき、最終も取りまとめていただくという形であるが、この文章そのものを消すという話にはならず、表現の部分だけになると認識している。
- 会長、副会長一任として、最終は事務局が責任を持って表現を取りまとめさせていただければ非常にありがたいと思うため、よろしく願いたい。

(委員)

- 先ほど述べたように、第二中学校区は施設一体型小中一貫校の建設は行われぬ方向で結論が出ていると聞いている。このため、施設一体型小中一貫校が交野市全域にあればという話ではない。この第一中学校においては進めます、という現に決まった事実について話をぼかすのであれば、施設型小中一貫校の建設そのものの話も全て取らないと整合性が出て来ない。決まった校区とこれから検討される校区があるにも関わらず、これから施設一体型小中一貫校の建設について記載するのは、齟齬が出てくると考える。

(会長)

- それでは、ここに入れた方が良いということか。

(委員)

- そうである。今後、他の校区も施設一体型小中一貫校の建設に対して議論が行われると付け加えられるとか、建設の方向も今検討中であるとか、良好な環境づくりに学校と地域との連動といった大きなくくりの話を入れるのは良いと思う。しかし、もう建設されない方向で決まった学校もうやむやに入れ込むのは、間違った表現となるのではないかと危惧される。

(事務局)

- なぜここで第一中学校区と書かれているかについて述べたい。他の中学校区はそれぞれの学校区ごとに、今後、学校施設をどうしていくについて、黒丸の中で、将来的には適正配置を考えなければいけないことを示している。そして、それまでについては、一番上の黒丸にあり、しっかり施設の維持改修を進めることが方向として明確に決まっている。
- 第一中学校区だけを挙げているのは、先に委員が述べたように、小中一貫校建設について、長い期間を掛けて、基本方針、基本計画とそれに伴う議会での予算審議を行って実際に進んでいるからである。第一中学校区では既に旧小学校を解体しており、学校建設は必ず行わなければならない。そのため、第一中学校区という言葉を外すことは考えていない。



- そして、二中、三中、四中校区は、この4年間の中で具体的な学校整備をすることはない。第一中学校区に限定していることに違和感があるというのは、あくまで整備、市として学校建設をしないとイケない状況になっているためであり、第一中学校区は外す必要はないと思っている。
- おそらく、施設一体型の小中一貫校だけの課題であると認識している。そこが新市長となった際に、小中一貫校という方向は、市や教育委員会で再議論される可能性はゼロではないというところで、この言葉の使い方だけであると思っている。長い議論をしていただいたが、私も変えていただく必要がないと思っている。
- 最終的に、答申いただいた後に、市として議会に提出する際に市の責任で表現をえるということが元々の事務局の考えである。先ほど皆様に色々意見をいただいたので、もし審議会として表現を変えていただくとすると、「施設一体型小中一貫校」という言葉を、例えば「小中学校の整備」に変えていただくことが考えられる。
- 当然、これまで積み上げてきた一貫校がそのままである可能性もあるが、違う方向となる可能性もあるため、市民の方が総合計画を見られたときに少し幅広く受け取っていただけるよう、しかし小中学校の整備は絶対しなければならないため、その意味で「小中一貫校」の言葉だけを少し和らげて、広く見ていただく考えも良いのではと思っている。その辺りの部分で、最終的には会長、副会長に一任として事務局と調整させていただければありがたい。

(会長)

- 明確な説明感謝する。これに関しては会長、副会長一任ではあるが、他にも意見をお願いしたい。

(委員)

- 私も最終的には会長、副会長に一任の意見ではあるが、事務局が述べたように、小中一貫校という表現を外すのには抵抗がある。というのは45ページの施策1、2、3、全てに「小中一貫教育」と3カ所書いている。小中を別々にした状態で小中一貫教育を進めるという方向なのかとも聞こえるし、それをやるためには小中一貫校の方が良いとも聞こえる。ただ、47ページの表現ではあくまでも小中一貫校として、小中別々の施設ではなくて、同じ施設の中で一貫してやっていくと見える。これは日本全体の流れでもあり、交野市がそこに取り組んでいくという前向きな方向を見せていると思うため、ここの表現は変えるべきではないと思っている。

(委員)

- 直前の委員の意見についてだが、小中一貫教育と小中一貫校は別である。小中一貫教育はもうすでに交野市でだいぶ長い間取り組んでいる。現に小中一貫教育として校舎は別であるが、色々な形の教育交流等が行われており、これはもう推進されてからかなりの年月が経っている。この小中一貫校は施設のことだけに関することであるため、別であることを知っていただければと思う。

(会長)

- まだ意見を頂いていない方がいればお願いしたい。

(委員)

- 最終の判断は会長と事務局に一任で良いと思う。先ほど事務局から説明があったような修正の仕方であれば、私もその修正には理解ができる。その修正を加える理由として、例えば特定されるような書きぶりは良くないのではという理由であれば、例えばこれを全部見直して、あとで修正箇所を全部共有していただくことになってしまうと思うが、そうではないという確認だけさせていただきたい。

(会長)

- 事務局、いかがか。この箇所のみという話であるか。

(事務局)

- 現時点ではこの箇所のみ議論として理解している。

(会長)

- まだ発言がない委員から、お考えをお聞かせいただきたい。

(委員)

- 私も最終的には会長、副会長、事務局の話し合いに対して一任という考え方である。表記の方法については、第一中学校区と、施設一体型小中一貫校を別に考えてしまうのは現状とそぐわないという印象がある。しかし、これを書くことによって、他の学校は触れないのかという印象を持たれるのであれば、もう一度再考する必要はあるかと思うが、私自身はこのままで良いと思っている。

(副会長)

- 会長、副会長に一任されても悩んでしまうと思いながら聞いていた。各委員が言われることは非常に理解できるし、現時点で客観的にこれを見たときに、委員が述べられたように、後半部分に重点があって、この小中一貫校の建設に関しては、私たちはもう進んでいる前提のものとして議論せずに、後半部分を判断したのだと思う。そのため、現時点でまだそこが分からないのであれば、このままでも良いのかと思う。しかし、確かに後ろの文言は非常に大事なことであり、全ての小中学校に適用してほしい内容であると思う。
- このため、この時点で変更すること自体が、行政や政治に対して忤度しているように思われることが嫌ではあるが、例えばこの第一中学校区が実際に具体的にもう工事も進んでいるということで、これを外す必要はないのであれば、「第一小中学校区における小中学校等の学校施設の建設計画では」というような言い方にして、他の学校も含むという言い方にして、少し表現を変えることができたら良いのかもしれないと思った。もう一切変えないほうがいい、変えるのはおかしいという意見も理解できるため、非常に悩むところではある。

(会長)

- 副会長も含め、皆さまから貴重なご意見をいただいた。大きな流れとしてはあまり変え過ぎないという意見、並びに学校の施設を利用して地域の活性化や地域に波及できる公共施設のあり方を書き込んでいるため、それが他の学校にも波及することが大事であるという意見があった。これを鑑みながら、副会長と相談のうえ事務局との3者で最終案を取りまとめてまいりたい。多くの皆様からお任せいただけるという意見を頂戴しているため、最終案はそのようにさせていただきたいと思う。
- そしてここは、47 ページの上に「1. 学校施設の整備」と書いてあるように施策である。計画ではないことを鑑みながら書きぶりを考えたい。施策とはご存じのように大きな枠組みでどういう方向性で動くのだということである。
- 大事にして欲しいのは、学校教育施設を使いながら、公共施設を整備することによって地域の人たちにも良いことをと、文章の後ろの部分が大事であるという意見もいただいた。これについては、どこの学校でも同じであるという意見をいただいたが、第一中学校区の方が先に進んでいる計画である。このため、これを一部尊重しながら、文言の修正によってもう少し幅広く取れる言葉に変えるかもしれないが、一定その方向で進めることをご了承いただければと思っている。皆様ご了解いただけるだろうか。

(一同)

- (異議なし)

(会長)

- 3者への一任ということで、ご了解いただいたということで進めたいと思う。
- もう1点として都市計画図の話が出ている。これは都市計画マスタープランからの抜き出しだと思うが、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

- こちらは基本構想審議会の中で、この内容について深く議論してない部分であるが、別の審議会で議論を行っている。事務局同士で都市計画マスタープラン等の議論と必ず整合性を持つ形で調整を逐一行っているため、ご了解いただければと思う。

(会長)

- それでは、先ほどの47ページの案件につきましては、会長、副会長、事務局で練ったものを最終案とさせていただく。それをご了解いただいたということにさせていただきたい。答申案を一部修正するかもしれないが、これで審議会の答申とさせていただきたいと思う。
- それでは議題の2、その他について、事務局からお願いしたい。

### 3. 議題2 その他

(事務局)

- 頂いた意見を踏まえ、事務局として会長・副会長と中身の精査を行い、結果を皆様に共有のうえ、答申とさせていただく。その後、12月議会に基本構想を上程するとともに基本計画も参考資料として議会に確認いただく予定である。
- 総合計画の体系として、基本計画を更にブレイクダウンした事務事業レベルの実施計画が存在する。こちらに関しては事務局で来年度の事業を落とし込んでいくための作業を行っていく。完成は年度末を予定している。

### 4. 閉会

(会長)

- 本日本日予定していた議題は全て終了した。この基本構想の審議会は、本日で9回目である。皆様から貴重な意見を頂戴し、中身の濃い議論ができたと感じており、非常に感謝している。私自身の不手際があり、最後まで色々議論いただく形となりお詫び申し上げる。
- しかし、この基本構想は、新たに分野別にしっかり作ったものであり、少し言いにくいですが、本市にとっては基本構想元年の計画となると思う。具体的・分野別にしっかりとどういう方向性でやるかを示したものであり、本市の羅針盤になっていくと思う。
- 事務局や委員の皆様も述べられたように、一番上位の計画である。これをしっかりと議会に審議いただいて、的確な総計として押し上げていただき、これから長きにわたり、各部署で具体的に運んでいただくという羅針盤となる。従って、本件については、皆様より知恵を拝借して、色々できたこととご協力を本当に感謝申し上げます。

(事務局)

- 事務局より審議会委員の任期が来年度までであるが、来年度予定は未定であり、動きがある場合については連絡することを説明。
- 企画財政部長より審議会委員へのお礼と閉会のご挨拶。